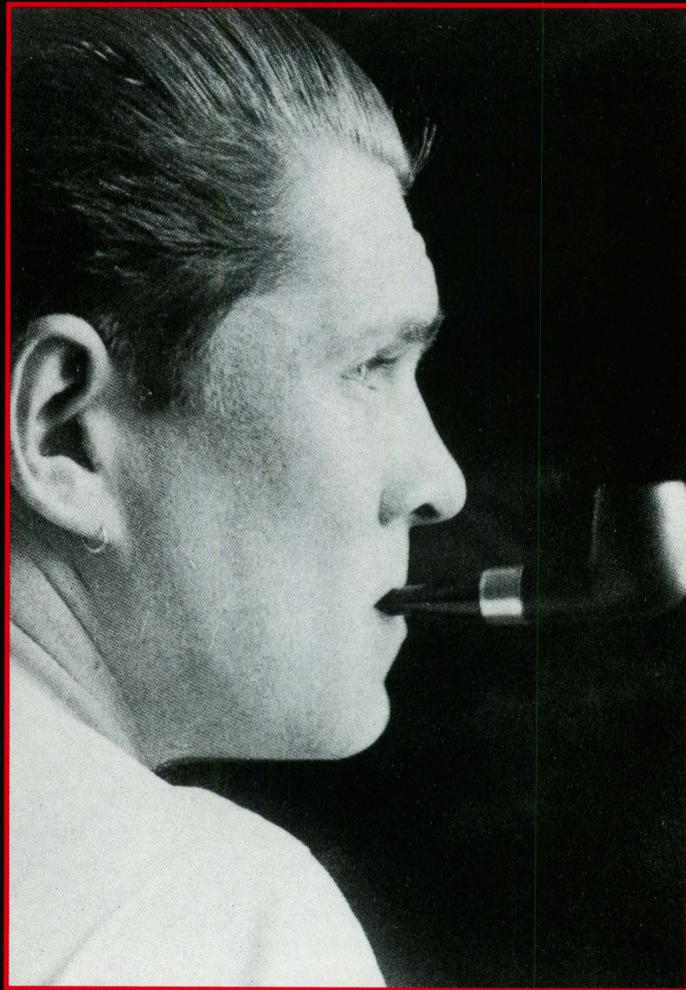


映画を  
おもしろくした男。  
○「ハリウッド」スターが「キータ・マハルコフ」が心から愛する  
田中ヒトの知のなかに映画



⊙映画話術の天才⊙

# ボリス・バルネット祭

## BORIS BARNET



**諜報員**

PODVIK RAZVEDCHIKA

1947年 モノクロ 1時間33分

○スリル満点、サスペンス映画の金字塔。



**青い青い海**

U SAMOVO SINEVO MORYA

1935年 モノクロ 1時間11分

○コメディの原点、至福にみちた愛と友情の物語。



**国境の町**

OKRAINA

1933年 モノクロ 1時間36分

○戦火のなか、国境を越えた愛が胸をうつラブロマンス。

配給：株シネセン 提供：株国際シネマライブラリー

◎「ボリス・バルネットの天才に比べられるのは、フランスのジャン・ヴィグ（『アタラント号』）だけだ」と激賞したのは、「ウルガ」のニキータ・ミハルコフ監督である。

1991年末のソビエト連邦解体まで73年間、ソビエト映画が残したすばらしい財産の一つ、それがボリス・バルネット(1902-1965)であり、1950年代以降、その全作品が欧米諸国で目ざましく再評価されている知られざる巨匠だ。

◎戦前はエイゼンシュテイン、ブドフキン、ドヴゼンコらの大巨匠の名声の陰にあって、国外での注目度は決して高いものとはいえなかったが、フランス・ヌーヴェル・ヴァーグの拠点、『カイエ・デュ・シネマ』誌のグループが相次いでボリス・バルネット論を執筆し、シネマテーク・フランセーズのアンリ・ラングロワ所長は意図的にバルネット特集を組み、その度に映画通の観客たちで会場は満員になり再評価の気運を盛り上げた。その先頭になったの

は、ジャン＝リュック・ゴダールやジャック・リヴェットである。

◎この気運は各国に及び、1975年のニューヨーク近代美術館や、1980年のロンドン国立映画劇場での特集上映を経て1985年のロカルノ映画祭における全作品上映の大回顧プログラムで頂点に達した。

◎バルネットの作品は、処女作のコメディ「帽子箱を持った少女」(1927)において表現されているように、詩情とユーモアにあふれ、またそのみずみずしいモンタージュが特徴といえるが、今回、代表作である「諜報員」「青い青い海」「国境の町」の三本を「ボリス・バルネット祭」として上映し、若々しいラブロマンスや戦争悲劇、そして息をのむようなサスペンスといった多彩な作品を生み出したバルネットの全貌を示し、そのしなやかな映像感覚や見事な映像話術の魅力を我が国で初めて紹介することとなった。

◎'91年の「パラジャーノフ祭」、そして'92年の「レン・フィルム映画祭」に引き続き、知られざるソ連の傑作に触れる絶好の機会となることであろう。

## BORIS BARNET

### 諜報員

PODVIK RAZVEDCHIKA

1947年/モノクロ/スタンダード/1時間33分

★出演：バーヴェル・カードニコフ、ボリス・バルネット

●1941年、ソビエトの国家保安部少佐アレクセイは軍司令部から重要任務を受ける。ドイツ陸軍大尉エッケルトに化けてドイツ軍の後方に潜入し、ドイツ陸軍將軍フォン・キューンとヒトラー総司令部との間の通信文を手に入れねばならないのだ。敵の真っ只中で窮地に追い込まれながら、果たしてアレクセイは任務を遂行することができるのか？ スリルたっぷりのサスペンス映画。



### ニキータ・ミハルコフ

【ロシア映画監督】

ボリス・バルネットは、われわれの時代の最もすばらしい監督の一人です。彼は、特別な映画言語を本格的に発見し、伝えた、おそらく最初の映画監督でしょう。表現手段における形象性、造形性におけるメタファー(比喩)、完全な自由さなど。これまで私は彼の作品を繰り返し見て、本当の映画人と交流出来る幸せをかみしめています。バルネット生誕90周年の年に、こうした言葉を日本の観客のみなさんへお伝え出来るのは私の喜びです。(1992年7月2日、東京)

### ジャン＝リュック・ゴダール

【仏映画監督】

バルネットの映画を仏頂面で迎えるには、本当に石のように無感覚な心の持ち主でなければならぬ。愛すべきわれらのボリスは、まさに文体こそが救いの神といった概念を拒否するにはあまりに見事な文体の持ち主だ。また生まれながらの物語作家を圧倒するような話術の才能。

（『カイエ・デュ・シネマ』1959年4月号）

### ジャック・リヴェット

【仏映画監督】

ボリス・バルネットは、エイゼンシュテインを別とすれば、ソビエト最良の映画作家である。（『カイエ・デュ・シネマ』1953年2月号）

### ジョルジュ・サドール

【仏映画史家】

ボリス・バルネットは喜劇における最良のソビエト映画作家。彼のアプローチは心やさしくリリカルで、行動の知覚的な観察においてはあたたかさに溢れている。（『映画人辞典』1968年）



### 青い青い海

USAMOVO SINEVO MORYA

1935年/モノクロ/スタンダード/1時間11分

★出演：エレナ・クジミナ、レフ・スヴェドリン、ニコライ・クリューチコフ

●大嵐のカスピ海で難破した船に乗っていた若者、アリョーシャとユスフは漁師たちに助けられ、ある島で機関士として働くことに。そして美しい娘マーシャに二人はひと目惚れするが……。美しくダイナミックな海の映像を背景に、若者たちの愛と友情の物語をコミカルに描く。

### 国境の町

OKRAINA

1933年/モノクロ/スタンダード/1時間36分

★出演：セルゲイ・コマロフ、エレナ・クジミナ、ハンス・クレーリング

●帝政ロシアの片田舎、眠っているような国境の町も、ドイツがロシアに宣戦布告した日から大揺れになる。資本家は軍靴の製造でひともうけしようと、若者は前線に送られる。ドイツ軍の捕虜とロシア人の靴屋の娘の許されざる愛を通して戦争の無意味さを静かに訴えるボリス・バルネットの代表作。



## 12月19日(土)より開催

●都内各プレイガイド、チケット・セゾン、チケットぴあ、セゾン系各劇場にて発売中。

●オープニングワーク 12/19(土)～12/25(金)  
【毎日3作品を上映/各回入替制】

連日	青い青い海	国境の町	諜報員	青い青い海
	2:15	4:00	6:05	※8:10

※初日12/19(土)のみ▶講演5:45～▶諜報員6:45～▶青い青い海9:05～

●諜報員 12/26(土)～'93年1/22(金)

連日	2:40	4:25	6:10	7:55

※1/16(土)～1/22(金)昼12:50の回追加上映

## 前売券「一般・学生」1,300円

好評発売中 当日一般1,700円/学生1,400円(税込)

●青い青い海 1/23(土)～2/12(金)

連日	1:00	2:35	4:10	5:45	※7:20

※初日1/23(土)のみ▶講演7:15～▶最終回8:15～

●国境の町 2/13(土)～3/5(金)

連日	12:00	1:50	3:40	5:30	7:20

## 「マールイキノ」

### キネカ錦糸町

JR錦糸町駅南口錦糸町西武  
ザ・プライム7階

☎03(3631)7020



ご来場は、ザ・プライム1階ドールコート  
ヒーローエレベーターをご利用下さい